

# そこには「諏訪の現人神」がいた

## 大祝が住んだ神殿「大祝邸」

中洲の神宮寺今橋地区に、春には梅や桜が、秋には紅葉やイチョウが楽しめる、木立に包まれた一角があります。ここには、かつて諏訪上社の大祝が暮らした邸宅があります。御柱祭や御頭祭(晋の祭)など古い信仰のかたちを残している諏訪大社が注目を浴びている今、諏訪大社にゆかりがあるものあまり知られていない史跡「大祝邸(大祝諏方家住宅)」をご紹介します。ぜひ一度訪ねていただき、歴史のうつろいを体感してください。

**山鳩色の装束(市博物館蔵)** ▶  
着ることで、諏訪明神が宿ると考えられ、大祝即位の際に着用された。神紋の穀葉紋が用いられている。

### 大祝とは 諏訪明神の現人神

大祝とは、五穀豊穡・武勇の神として広く祀られていた諏訪明神(注1)の依り代(神霊が宿る対象物)・現人神(生き神)の頂点に位置した神職です(注2)。穢れがないという理由で、多くは幼童(8歳くらいの男子)が選ばれたようです。上社大祝は、古代から中世(平安時代〜戦国時代)までは諏訪の支配者として、絶大な権力を握り君臨していました。江戸時代に入り、政教分離が完全になされ、「藩主諏訪家」



大祝の姿(大祝諏方氏)  
(江戸時代の御柱絵巻より)

が政治を、「大祝諏方家」が信仰を司ることになりました。その後、明治維新で神官の世襲制度が廃止されたため、大祝職も廃止されました。現人神(生き神様)を祀る信仰が、これほど長く存在し続けた諏訪社は、全国的にも珍しいといわれています。

### 大祝邸とは、大祝が住んだ神聖な邸宅

大祝が住む邸宅は神聖であり「神殿」と呼ばれていました。中世まで前宮の麓にありましたが、安土・桃山時代に現在地に居館を構え(注3)、こ

れに伴い大祝邸周辺には、宮田渡と呼ばれる集落(現、今橋地区)が形成されました。東に流れる旧宮川は「堀」の役目を果たしていたようです。大祝邸は、江戸時代後期の文政13年(一八三〇年)に焼失し、天保年間(一八三〇〜四四年)に再建されました。このときは、約三千坪の敷地に約320坪の主屋が建てられ、2棟の土蔵、別荘、女性が出産時などに籠る「たや部屋」などの別棟も備える広大なものでした。その後、明治・大正時代を経て昭和初期には、敷地とともに主屋も約80坪に縮小され、元来居室として使用していた



イチョウ(市天然記念物)  
推定樹齢200年で、雌木では市内最大のものです。「仏法紹隆寺の雄木のイチョウ(市天然記念物)と夫婦」との伝説があります。



主屋  
江戸時代後期の天保期(1830〜44年)に建てられた広大な建物が縮小を繰り返して、現在まで残されています。南側は新しい材料で増築されていますが、北側は江戸時代のままの姿を残しています(下写真参照)。



主屋北側  
現在も天保年間の姿をとどめています。



八角級笠  
江戸時代の御柱絵巻(本頁左上)に描かれている大祝がかぶっていた笠が残されています。(大祝諏方家資料)



礎石  
のあちらこちらに、かつての礎石が残っています。かつての住宅の規模を示す貴重な文化財です。

### 大祝邸を整備しました

多くの人が大祝邸を訪ねていただけのように、平成21年度から22年度にかけて整備を進めました。その結果、主屋を囲む塀・庭を歩ける遊歩道・駐車場の整備、案内表示の設置、誘導標識、説明板、案内パンフレットを作成しました。これらには、東日本鉄道文化財団(JR東日本が出資)が地域文化振興のために設けた「地方文化事業支援」の助成金を活用しました。今後、市民のみなさんに広く紹介するために見学会を開く予定です。



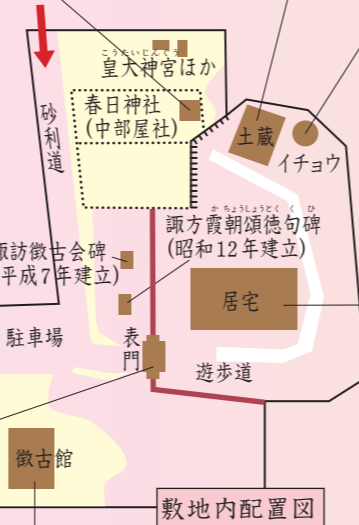
春日神社(中部屋社)  
古くは中部屋社と呼ばれ、もとは前宮の麓にあった大祝の居館内にあり、居館がこの場所に移ったことに伴い移転したと考えられています。春日社の神を祭神としています。



表門  
棟門と呼ばれる形で、江戸時代後期(天保期)の建物でしたが、かつては敷地の西縁にありましたが、30mほど後退して現在地にあります。礎石の基礎や潜り門、袖塀に近年の改修が見られます。



土蔵  
牛鼻には諏方家の家紋である穀葉紋があります。漆喰の戸などからも、格式の高さがわかります。



徴古館  
大祝家資料を中心に保管・展示をする施設として昭和12年に建設された建物です。

### 市博物館で保管されている大祝家の資料

市博物館2階の常設展示室には、天保年間の平面図をもとに作った「大祝邸の立体模型」(裏表紙に写真)が常設展示されています。また、1階ホールには、大祝の職に就く「即位式」のために作られた八角神殿を、当時の古文書の図面から復元し展示しています。

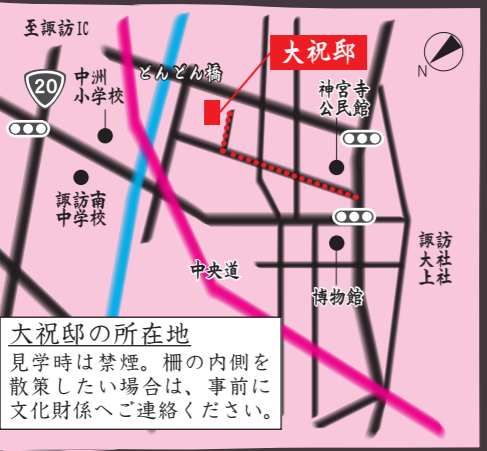
この八角神殿の中で、上社の筆頭神官である神長官(注4)と大祝が二人きりで籠り秘儀が授けられました。大祝家に残された資料は、当時使用した道



八角神殿(復元)  
大祝の即位式のために作られた(博物館で展示中)

具や衣装、書き残した日記、幕府の役人から受け取った手紙など数千点にのぼり、市博物館で保管しています。(注4)大祝に仕える神官は5人おり、五官祝といわれました。五官祝は、位順に神長官、祢宜大夫、権祝、擬祝、副祝がいました。

諏訪市文化財保存基金  
諏訪市では、連続と継がれた大祝家の当主が平成14年に亡くなった際に、文化財を保存、活用するために基金を設けました。こうした基金は、県下ではほかにありません。諏訪市ならではの文化財保存モデルに賛同していただける人は、基金への積立にご協力いただければ幸いです。(問)生涯学習課文化財係 ☎52-4141(内線582)



大祝邸の所在地  
見学时は禁煙。柵の内側を散策したい場合は、事前に文化財係へご連絡ください。

### なぜ塀のコンクリート基礎を地面に埋めないの？

昔の人々が生活した痕跡(遺構)が残る土地を「遺跡」といいます。遺跡は長い年月をかけて、自然に堆積する土や土地の造成などにより地下に埋もれています(この大祝邸にも大きな邸宅があった痕跡が地下に眠っています)。コンクリート基礎を埋めるとなると、土を掘り返す工事が必要になり、遺跡を壊すおそれがあります。以上の理由で地面に埋めていません。遺跡を守ることは、現在に生きる私たちが、「ここに確かに人々が暮らしていた」という証を、後世の人に残していくことなのです。



主屋を囲む塀

塀の基礎

遊歩道